

テーマ：2017年10-12月期GDP（2次速報値）の予測
～前期比年率+1.0%と、1次速報から小幅上方修正を予想～

発表日：2018年3月1日（木）

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 新家 義貴

TEL:03-5221-4528

○法人企業統計の結果を受け、1次速報から上方修正の見込み

3月8日に内閣府から公表される2017年10-12月期実質GDP（2次速報）を前期比年率+1.0%（前期比+0.3%）と、1次速報段階の前期比年率+0.5%から小幅上方修正されると予想する。設備投資、在庫変動、公共投資がそれぞれ1次速報からやや上方修正となり、成長率を押し上げる見込みだ。

17年4-6月期の+2.5%、7-9月期の+2.2%という高い成長の後にもかかわらず、10-12月期も潜在成長率並みの成長を確保ということであれば、良好な結果とあって良いだろう。また、10-12月期は通信機の輸入増等もあって一時的に輸入が大幅に増加したことが成長率押し下げ要因になった点にも注意が必要である。実際、輸入以外の需要項目では、輸出の高い伸びが続き、設備投資も明確な増加傾向で推移するなど、好調な企業部門に牽引されて景気回復が続いている様子がみとれる。GDP以外の経済指標においても10-12月期は良好なものが多く、景気は好調な推移が続いていると判断して良いだろう。

先行きについても、世界経済の拡大に伴う輸出の増加と好調な企業業績を背景にした設備投資の持ち直し傾向は続くと思われる。景気を取り巻く環境は良好であり、今後も景気は改善を続ける可能性が高い。

2017年10-12月期GDP2次速報予測

	(%)
実質GDP	0.3
(前期比年率)	1.0
民間最終消費支出	0.5
民間住宅	▲ 2.7
民間企業設備	0.9
民間在庫変動(寄与度)	0.0
政府最終消費支出	▲ 0.1
公的固定資本形成	▲ 0.1
財貨・サービスの輸出	2.4
財貨・サービスの輸入	2.9
名目GDP	0.2
(前期比年率)	0.4

1次速報実績

	(%)
	0.1
	0.5
	0.5
	▲ 2.7
	0.7
	▲ 0.1
	▲ 0.1
	▲ 0.5
	2.4
	2.9
	0.0
	▲ 0.1

※断りの無い場合、前期比(%)

(出所)内閣府「国民経済計算」、第一生命経済研究所

○需要項目別の動向

実質設備投資は前期比+0.9%と、1次速報段階の前期比+0.7%からやや上方修正されると予想する。本日公表された17年10-12月期の法人企業統計では、名目設備投資（ソフトウェア除く）が前年比+4.7%と、7-9月期の+4.3%から伸びが拡大し、季節調整済み前期比でも+3.1%と高い伸びになった。QE推計にお

いて実施されている法季のサンプル要因を除去するための断層調整等を行えば、公表値よりも伸びは控えめなものになるが、それでも1次速報の値からは上振れる。これでGDP統計の設備投資は5四半期連続の増加であり、伸び率も比較的高い。設備投資を取り巻く環境は良好で、先行きも増加傾向を続ける可能性が高いだろう。

在庫投資は前期比寄与度0.0%Ptと、1次速報段階の▲0.1%Ptから小幅上方修正されると予想する。法人企業統計の結果を受けて、1次速報段階では仮置きとなっていた原材料在庫が上方修正されると思われる。

そのほか、公共投資は前期比▲0.1%を予想する。1次速報段階で未公表だった17年12月分の建設総合統計の結果が反映されることで、1次速報の前期比▲0.5%から小幅上方修正されるだろう。